

ロングアドベンチャー

8月23日(火) ~ 8月28日(日)

IN 兵庫県立兔和野高原野外教育センター

	午前	午後	夜
1日目	施設に向けて出発	レクリエーション大会 野外炊飯	ナイトハイク 振り返り
2日目	登山	登山 野外炊飯	振り返り
3日目	野外炊飯 川遊び	川遊び 買い出し	振り返り 星空就寝
4日目	秘密基地づくり	工作 手巻き寿司パーティー	振り返り
5日目	野外炊飯 宿題タイム	グループタイム スタンプ練習	キャンプファイヤー
6日目	施設清掃 思い出工作	施設を出発 解散式	

一日目：六日間一緒に頑張るメンバーが尼崎駅に集まり、グループ発表後、バスに乗り込みました。施設に到着し、昼食の場所を決める事からグループ活動が始まりました。昼食を済ませた後はゲーム大会をしました。グループ対抗の『フープリレー』と『ドッチボール』をしました。特にドッチボールは予想以上に白熱し、ルールやチーム変えながら何試合も楽しみました。その後、キャンプのテーマや寝るテントを決めました。夕食は自分達で焼きそばを作りました。生まれて初めて一人で包丁を使うメンバーもおられ、周りのメンバーに見守られながら、一つ一つ慎重に切る事が出来、満足そうでした。夕食後は入浴へ向かいました。キャンプ場からお風呂場までは少し距離があるので、その間毎晩ナイトハイクを楽しめます。この日は特別天気が良く、星がとても綺麗に見えました。途中でライトを消し、星空を見上げ、ゆっくりとした時間を過ごしました。入浴後、一日の振り返りとして『気持ちグラフ』を書き、就寝しました。



二日目：肌寒く、ひんやりとした朝を迎えました。今回のキャンプでは、活動に必要な持ち物を共有スペースに掲示し、それを自分で確認し準備に取り掛かり、そして忘れ物がないか全員で確認しました。結果、忘れ物が相次ぎ、集合時間を大幅に過ぎる結果となりました。グループごとに朝の時間を振り返り、その後朝食を済ませ、施設近くにある瀨川山の「はちまき展望台」へ向けて出発しました。道中、様々な生き物に出会いました。その度に足を止め、皆で生き物を囲み夢中で観察しているかと思えば、隣のグループは少し観察すると『グループ名』や『グループ目標』の話し合いを続けておられました。2つのグループしかありませんが、異なるグループの色が出ており、雰囲気も全く違いました。下山後は、このキャンプで初めての野外炊飯をしました。食器や薪などの器材を協力して運び、オムライス作りが始まりました。役割を分担し、作り始めたのですが、片方のグループはなかなか火がつかず、時間にして約2時間色々なやり方で挑戦しておられました。その後入浴を済ませ、個人、グループの振り返りをしました。思うところが沢山あり、一日目より気持ちの変化が大きかったようです。



三日目：昨日の疲れからか皆起床時間までぐっすり眠っておられました。全員が自分で張り出された紙を確認し、準備を進め集合しました。まだ忘れ物はありましたが、早めに集合していた為、集合時間には間に合いました。朝食はパックドックを作りました。その後、楽しみにしていた川遊びへ出発しました。施設から山を下り、『猿尾滝』まで約7kmの道のりです。最初は弾んでいた会話も徐々に少なくなり、後半は弱音を吐くメンバーもおられました。なんとか到着し、昼食と着替えを済ませ、待ちに待った川遊びが始まりました。皆は我先にと上流へと進み、流れや深さが変化する川を思いっきり楽しみました。小さな滝を滑り台のように何度も滑り、歓声を上げていました。帰りに近くのスーパーで食材を買い出し、車で施設へ戻りました。夕食、入浴、振り返りを素早く終え、この日は星空就寝をしました。どこまでも広がる星空に「寝るのが勿体無い。」と話していましたが、疲れていたのか次第に寝息が聞こえてきました。



四日目： 太陽の眩しさで目が覚めたメンバーや、揺すっても起きないメンバーと賑やかな朝でした。素早く寝袋を丸め、朝の準備を進めておられました。四日目ともなると一連の流れが確実に習慣付き、グループ内で忘れ物がないか確認してから集合する姿も見られました。これからキャンプ後半です。前半はキャンプ場の外でのプログラムが多くありましたが、後半はキャンプ場内で過ごします。朝食を終え、名札作りと秘密基地作りが始まりました。どちらのグループも“周りから見えにくい”というテーマにぴったりの場所を見つけ、小雨が降っていてもレインコートを着て秘密基地へ向かう程、気に入ったようでした。名札は丸太をノコギリで上手に切り、カラフルにペイントしておられました。夕立がくるという予報が出ていた為、少し早めに野外キッチンへ移動し、自分達で考えたメニューを作りました。大雨に見舞われましたが、大きな影響を受けず、美味しい「回鍋肉」と「クリームシチュー」が完成しました。慣れた手つきで片付けを終え、毎夜恒例の振り返りをしました。徐々に考え込む事も減り、書く文章も長くなりました。テントへ戻ると、すぐに「おやすみ。」という声が聞こえ、静かに眠りにつきました。



五日目： やはり疲れが溜まっているのか、日を追うごとに起きる時間が遅くなっていきます。しかし、起きてからの準備は日を追うごとに速くなり、忘れ物なく5分前集合が出来るようになりました。朝食は棒焼きパンです。野外キッチンへ移動し、グループリーダーが捏ねたパンを棒に巻きつけ、焼いていきました。パン全体を美味しく焼く為には、炎の熱に当て続けなければなりません。根気よく焼いたパンはフワフワに膨らみ、とても良い匂いがしていました。パンをペロリと平らげ、ここから夕食まではグループタイムです。夜のキャンプファイヤーで披露するスタンツの練習をしたり、持参した宿題をしたり、おやつ作りをしたり、ゆったりとした時間を過ごしました。昼食は皆で手巻き寿司パーティーを楽しみ、お腹いっぱい食べました。そして、名札作りの続きやスタンツの最終リハーサルを終え、先に食堂で夕食を済ませ、いよいよキャンプファイヤー場へ向かいました。緊張の面持ちでキャンプファイヤーが始まりました。ここまで5日間一緒に過ごしてきた仲間とのキャンプファイヤーは、とにかく大盛り上がりでした。スタンツは「歌+手品」と「ダンス」を披露し、やりきった様子でした。最後にリーダー達からの言葉で五日間を振り返り、満天の星空をのんびり見上げ、終幕しました。



六日目： ついに最終日です。「もう最終日。」か、「やっと最終日。」と感じるかは様々ですが、朝から皆テキパキと動き回っておられました。片付ける物や掃除する場所は多くありましたが、グループごとに役割を分け、手慣れた手つきで済ませていきました。お気に入りの秘密基地も惜しみながら撤去し、全ての片付けを終えました。その後、自身の5日分の『気持ちグラフ』を冊子にまとめました。メンバーやリーダーからメッセージを書いて貰ったり、思い出の絵を描いたり、とても和やかな時間となりました。移動時間ギリギリまで作り、キャンプ場を後にしました。大きい荷物や備品の運搬も協力して済ませ、食堂がある本館へ移動しました。昼食中も会話が絶えることがなく、寂しさもあるけれど、今が楽しいといった様子でした。帰りのバスも笑いが絶えず、最後まで賑やかなキャンプでした。



<キャンプ総括>

今年は、天候に恵まれたことやキャンプ経験者が多かったこともあり、一つ一つのプログラムをじっくり楽しむことが出来ました。“じっくり楽しむ”という中には“思う存分楽しむ”という意味もありますが、“納得するまでやる”という意味も含まれると思います。その“納得するまでやる”という面で最も印象的な場面は、やはり火おこしに約2時間かかった事だと思います。途中、どうすれば良いかグループで話し合いますが、なかなか新しいやり方が生まれず、上手くいかない方法を何度も繰り返していました。そんな状況で上手くいく方法を伝える事は簡単ですが、時間がたっぷりある中で色々な方法に自分達で気づくことが大切と考え、見守りました。火がつかないとご飯が食べられないという状況を皆が理解していたからこそ必死に考え、最後まで頑張る事が出来たと思います。これからも皆が同じ事で悩み、答えを出そうと前に進む事が出来るよう見守り続けていきたいと感じました。(生本 ひろみ)